



ニコニコ・BOX

- | | |
|---------|---|
| 山名 正一 君 | 本日ゲストとして、宮本陽加さんにお越し頂きました。後ほどスピーチして頂きます。 |
| 小椋 孝一 君 | 昨日、千賀さんにお世話になりました。ありがとうございました。 |
| 千賀 知起 君 | 会長が毎日新聞に載っていました。 |
| 阪口 洋一 君 | 初めて新聞に載りました。 |

Rotary NEWS

ロータリー青少年交換 一度だけの人生、大胆にいこう！



ブラジルのガブリエラ・ベッサニさんは、12歳のとき、母や友人と一緒にペンシルバニアで夏休みを過ごしました。その時の楽しい思い出が鮮明に心に残っているというガブリエラさん。ロータリー青少年交換プログラムのことを知ったとき、「これこそ自分のやりたかったこと」だと感じたそうです。

今年、彼女はカナダのロータリークラブが主催した合宿プログラムに参加しました。参加した7人の学生には海外から養子縁組された子どもも複数名含まれ、楽しくてユニークな体験となりました。「たくさんの友だちとの交流を通じて、さまざまな文化を学ぶことができた」と彼女は振り返ります。さらに、7月、ガブリエラさんは他104名のロータリー青少年交換学生とともに、アメリカ全土を回るバスの旅に参加。31日間のフィナーレを飾る最終地点として、イリノイ州エバンストンにあるロータリー世界本部を訪問しました。「人生に変化をもたらすロータリーならではの、最高のプログラムでした」

ロータリー会員にも変化が

初等教育の教育長を務め、ディアフィールド・ロータリークラブ（イリノイ州）会員のマイク・ルーベルフェルドさんは、青少年交換学生をクラブで受け入れるために、何週間もかけて入念な計画を立てました。そして8月、クラブ会員は、インドネシアからの17歳の留学生、レオさんを空港で出迎えました。レオさんの留学生活は始まったばかりですが、すでにたくさんの刺激的なことがあったとマイクさんは話します。

「世界中の若者と交流することは、より良い未来をつくる最善の方法だと思います。文化交流は、留学生だけでなく、クラブ会員にとっても貴重な経験です」

海を渡って自信をつける

インドに暮らすバルダ・シャアさんの家族は、友人から青少年交換学生のホストファミリーとなることを勧められたとき、あまり気乗りがしませんでした。「相手は男の子でドイツ人。うまく行くとは思えなかった」とバルダさん。しかし、せっかくの機会だからと、家族で留学生の受け入れを決意しました。その結果、「3カ月でこれほど仲良くなれるとは思わなかった」と振り返るほど、留学生との生活は実りあるものとなりました。バルダさんは現在も、スカイプやソーシャルメディアで頻繁に連絡を取っています。今度はバルダさんが一念発起し、交換留学生としてニューヨークに滞在しました。3つのホストファミリーの世話になり、キャンプやスポーツ観戦といったさまざまな経験をしたバルダさんですが、一番の変化は何かというと、「自信がついた」ことだそうです。「以前は知らない人と話すなんて絶対ムリだったけれど、今はそんなことはありません。自分から話しかけることもあります。心を開いて大人になるって、こういうことなのだと思います」

人として向き合う

オーストリアのジュリアナ・キーンさんは、姉に倣って青少年交換に参加し、ペンシルバニア州のホストファミリーと一緒に過ごしました。人を受け入れ、違いを受け入れることの大切さを学んだとジュリアナさん。「世界中からの交換学生と出会い、人として向き合うこと、そして差異のみによって人を判断してはならないことを学びました。自信がつき、自分自身を受け入れることもできるようになりました」

一度きりの人生、大胆にいこう

スペインのミネルバ・ロペス・マルチネスさんは、青少年交換学生としてカナダに滞在しました。留学前、学業面の遅れを懸念して留学を断念した友人がいたそうですが、彼女は「人生いつでも学校に行けるけど、青少年交換のチャンスは一度だけ」と考えました。「恥ずかしがりやの自分を変えたかった」とミネルバさん。「今では新しいことに挑戦し、知らない人とも積極的に話が出来ます。私は変わったのです」

2016 年国際大会に登録しよう！

2016年5月28日～6月1日
韓国・ソウル



